

い き い き

作曲家・ピアニスト 樹原涼子さん

日本のすべての子供のためにピアノ曲集を作ろう。自らの指導経験を生かし、ピアノの入門用教則本『ピアノランド』を出版し、来年20年を迎える。

「昔ながらの『バイエル』は、『今の子』の感覚からかけ離れていた。ペーシをめぐっても似たような曲ばかりで、『うまくなくてもしようがない』『弾けてもうれしくない』とまで言う生徒もいました」

そこで同世代の3人の女性とチームを組んで、全く新しいピアノ教材の制作に挑んだ。

初めから両手奏ができる

美しいメロディーに、動物や恐竜など、子供にとって親しみのあるものをテーマにした歌詞。そして、色彩豊かで、かわいらしいイラストが躍る楽譜ができあがり、出版社に企画を持ち込んだときは妊娠5カ月だった。

「女性の『生む』というパワーはすごい」。周囲は、そう舌を巻いた。

年子で次男を出産すると

8月に都内で開かれた「ピアノランドフェスティバル」。ピアニストの小原孝さんとユニットを組み、オリジナル曲を披露した(相澤隆さん撮影)

「それを繰り返すうちに、あるとき、私がおんびりと楽しい気持ちでいれば、子供もい子で寝てくれるのが分かった」

親が変われば子も変わる



〈きはら・りょうこ〉 熊本県生まれ。武蔵野音大卒業後、ピアノ教師やジャズダンスのインストラクターなどを経て、平成3年に教則本『ピアノランド』を出版。シリーズは16冊を数え、累計170万部を超えるヒットに。セミナーやコンサートなどを通じてピアノ教育の新しい提案を続ける一方、歌手活動にも力を入れる。

「子供に時間を取られる」という考え方が間違っていたのに気づいた途端、この苦痛だった時間も劇的に変わった。

「(子供の体を)『トン』するときに、自然にそのリズムに合わせて曲ができた。ピアノのタッチの研究をしてみたり。結果的に『ピアノランド』の曲



の世界をふくらませることにつながりました」

親が変われば子も変わる。たくさん生徒と親を見てきて、確信をもって言い切る。

「親が子供にしか目がいってないときは、子供は苦しくて窮屈に感じる。でも、親自身の人生を大切に、子供を受け入れた瞬間に子供は輝き出すんです」

ピアノを教えながら、親のコンサルタントの役割も果たしてきた。

そして、かつて子供たちのためにピアノメソッド(体系的な方法)を作ったように、今度は悩めるお母さんたちの子育てメソッドを『樹原家の子育て』ピアノランドと笑顔の毎日』(角川書店)にまとめた。

実体験から導き出されたノウハウを貫くのは、《相手を手を大事にするから大切な人になっていく》という温かなメッセージ。今、見直すべき家族関係のあり方に共感の輪が広がっている。(榊聡美、写真も)